

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: コレラ 2 例 (感染地域: ともにインド)、細菌性赤痢 4 例 (感染地域: 兵庫県 2 例、愛知県 1 例、エジプト 1 例)、腸チフス 1 例 (感染地域: シンガポール/バングラデシュ)
- 3 類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 111 例 (うち有症者 74 例、HUS 3 例) [感染地域: 国内 110 例、インドネシア 1 例 国内の多い感染地: 埼玉県 (18 例)、鹿児島県 (13 例)、東京都 (10 例)、愛知県 (8 例) 年齢群: 10 歳未満 (34 例)、10 代 (27 例)、20 代 (14 例)、30 代 (14 例)、40 代 (11 例)、50 代 (3 例)、60 代 (3 例)、70 歳以上 (5 例) 血清型・毒素型: O157 VT2 (42 例)、O157 VT1・VT2 (36 例)、O26 VT1 (13 例)、O26 VT1・VT2 (2 例)、O91 VT1 (2 例)、O103 VT1 (2 例)、O157 VT1 (2 例)、O1 VT1 (1 例)、O111 VT1 (1 例)、O121 VT2 (1 例)、O128 VT1 (1 例)、その他/不明 (8 例)]
- 4 類感染症: E 型肝炎 1 例 (感染地域: 神奈川県、感染源: 不明)、A 型肝炎 1 例 (感染地域: フィリピン)、つつが虫病 6 例 (感染地域: 秋田県 3 例、青森県 2 例、岩手県 1 例)、デング熱 1 例 (感染地域: インドネシア)、マラリア 2 例 (ともに三日熱、感染地域: パプアニューギニア 1 例、インド 1 例)、レジオネラ症 13 例 (すべて肺炎型、うち 1 例死亡) [年齢群: 50 代 3 例、60 代 5 例、70 代 3 例、80 代 2 例 感染地域 (温泉): 岐阜県 3 例 (うち 1 例温泉)、山口県 2 例 (うち 1 例温泉)、北海道 1 例 (温泉)、埼玉県 1 例、富山県 1 例、静岡県 1 例、三重県 1 例、京都府 1 例、兵庫県 1 例、岡山県 1 例]
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 12 例 (腸管 11 例、腸管外 1 例) [感染地域: 国内 8 例、インドネシア 1 例、タイ 1 例、メキシコ/ブラジル 1 例、国外 (不明) 1 例 感染経路: 経口 3 例、性的接触 4 例 (異性間 2 例、同性間 1 例、不明 1 例)、不明 5 例] ウイルス性肝炎 5 例 [B 型 4 例、感染経路: すべて性的接触 (異性間 3 例、同性間 1 例)、C 型 1 例、感染経路: 不明] 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例 (70 代、血清群: A 群、死亡)、後天性免疫不全症候群 16 例 (無症候 13 例、AIDS 3 例) [感染経路: 性的接触 12 例 (異性間 2 例、同性間 9 例、異性間/同性間 1 例)、不明 4 例 感染地域: 国内 12 例、国外 (国不明) 4 例]、ジアルジア症 1 例 (感染地域: 国内)、梅毒 10 例 (早期顕症 I 期 3 例、早期顕症 II 期 5 例、無症候 2 例)、破傷風 3 例 (50 代 1 例、60 代 2 例)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は 3 週連続して減少したが、過去 5 年間の同時期 (前週、当該週、後週) と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では沖縄県 (18.6)、青森県 (2.6)、岩手県 (1.3)、北海道 (1.2) が多い。小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 70 例の報告があり、報告数は減少した。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の約 70% を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では愛媛県 (2.5)、奈良県 (2.4)、鳥取県 (2.1)、長野県 (2.0) が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は 2 週連続で減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では山形県 (3.3)、三重県 (3.0)、長野県 (2.9)、宮崎県 (2.9) が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第 21 週以降、減少が続いている。都道府県別では大分県 (8.4)、福井県 (8.0)、宮崎県 (6.5) が多い。水痘の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では長野県 (4.1)、福島県 (3.5)、愛媛県 (3.4)、新潟県 (3.4) が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 19 週以降、増加が続いている。都道府県別では福井県 (9.1)、岐阜県 (5.2)、徳島県 (4.8)、静岡県 (4.7) が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は 3 週連続で増加した。都道府県別では埼玉県 (1.6)、山形県 (1.5)、鳥取県 (1.5)、宮崎県 (1.5) が多い。百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では栃木県 (0.09)、福島県 (0.06)、福井県 (0.05)、長崎県 (0.05) が多い。風しんの定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮城県 (0.05)、山梨県 (0.04)、島根県 (0.04)、鹿児島県 (0.04) が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第 10 週以降、増加が続いている。都道府県別では和歌山県 (9.9)、千葉県 (7.9)、神奈川県 (7.4)、新潟県 (6.2) が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では千葉県 (0.05)、岩手県 (0.03)、秋田県 (0.03)、岡山県 (0.02)、鹿児島県 (0.02) が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はほぼ横ばいであった。都道府県別では鹿児島県 (4.7)、鳥取県 (3.4)、新潟県 (3.4)、長野県 (3.2) が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では青森県 (2.7)、群馬県 (2.0)、沖縄県 (1.9) が多い。

	小児科定点											眼科定点		基幹定点									
	1)	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	3) 細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	4) クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																							
愛媛県	.4		2.5	1.4	4.4	3.4	.8	.7	.9	.0		5.8		1.5		3.9			.5				
近畿	香川県	.3	.1	1.5	.8	1.8	1.1	3.6	.4	.8		2.6		1.0		.3							
	徳島県	.1		1.0	1.2	2.0	1.7	4.8	.2	.8		3.7		2.3		.5							
	高知県			.6	1.0	1.7	1.5	.4	.2	1.0		2.8		.9		.3			.1	.1			
全国	.5	.0	1.3	1.9	3.5	2.2	1.4	.8	.8	.0	.0	4.2	.0	1.7	.0	1.2	.0	.1	.4	.0			
北海道	1.2	.1	1.6	2.6	1.9	3.1	.2	.3	.5	.0	.0	1.4	.0	2.7	.0	.8			.7	.0			
東北	.7	.0	.7	1.8	3.0	2.5	.5	.9	.8	.0	.0	4.1	.0	1.7	.8	.0	.0	.0	.1	.5	.0		
関東	.0	.0	1.5	2.0	3.2	2.1	.7	1.0	.8	.0	.0	5.9	.0	1.8	.1	2.0			.1	.5			
甲信越北陸	.1	.0	1.4	2.2	3.7	2.9	1.8	.5	.7	.0	.0	3.8	.0	2.3	.0	.9	.0	.0	.5	.5			
東海	.0	.0	1.4	2.1	3.4	2.5	4.6	1.2	.9	.0	.0	3.3	.0	1.5	.0	.8			.1	.3			
近畿	.1	.0	1.3	1.9	3.6	1.8	1.3	.6	.8	.0	.0	4.2	.0	1.3	.0	.9	.0	.1	.2	.2			
中国四国	.3	.0	1.1	1.3	3.9	1.8	1.2	.6	.9	.0	.0	3.8	.0	1.7		1.2		.2	.3	.0			
九州沖縄	2.0	.0	1.0	1.5	4.5	2.0	.6	.6	1.1	.0	.0	3.5	.0	1.9	.0	1.5	.0	.1	.3	.0			

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病は除く。 (7月6日集計) 愛媛県基幹感染症情報センター

